

Guide Book

コンクリート船

武智丸

母浦の船

武智丸を
コンクリート船
知ろう

目次

第1章 海軍特務船「武智」を知ろう。なんで、船がコンクリートか？

(建造の経緯)

- 1 戦争という鉄材の消耗戦
- 2 船の数が不足
- 3 コンクリート船の研究、設計
- 4 コンクリート船を造った人
- 5 完成就役
- 6 船の大きさ
- 7 コンクリート船武智の仕事
- 8 終戦後のコンクリート船



第2章 安浦漁港の防波堤になった「武智丸」を知ろう

- 1 枕崎台風
- 2 安浦漁港の立地と海底の様子
- 3 朗報、コンクリート船「武智丸」
- 4 防波堤 コンクリート船「武智丸」の危機
- 5 水の守り神 みんなの宝物

雑学

船の名前に「丸」がついている理由

「丸」の歴史は古く平安時代の書物の中にも『坂東丸』と言う船名が出てきます。

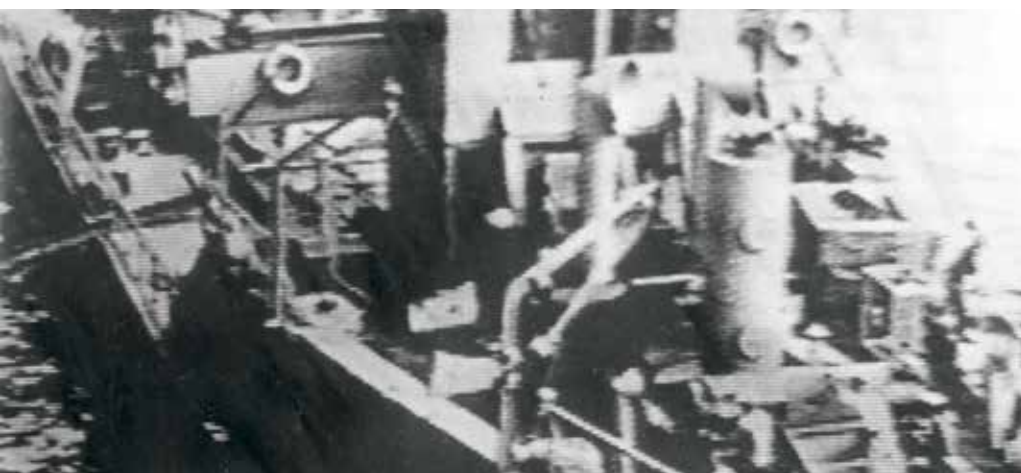
「丸」のいわれはかつて自分を「麿」と呼んでいたものが、犬や刀や船など大切なものにつけられるようになりました。そして「丸」が決定的に多くなったのは明治時代にできた船舶法で、なるべく「丸」を使うようにと推奨されたからです。

例：「氷川丸」「ぶらじる丸」「日章丸」等

海軍では丸を付けませんでした。現在でも海上自衛隊、海上保安庁は「丸」は付けません。従って、文章中海軍籍時代の武智丸には「丸」を付けていません。

例：戦艦「大和」 巡洋艦「古鷹」 護衛艦「いせ」 掃海艇「えたじま」等

海軍特務船「武智」は戦後商船籍になってから武智丸と「丸」を付けました。





第1章

コンクリート船「武智」を知ろう。 なんで、船がコンクリートか？

1 戦争という鉄材の消耗戦

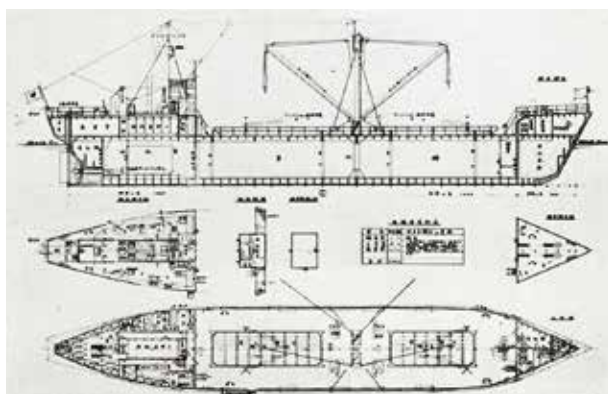
昭和の時代に日本はアメリカを中心とする連合国と戦争をしました。戦争には沢山の戦車、航空機、軍艦や大砲、砲弾などの武器が大量に消費されます。このような軍用武器等は鉄鋼製品です。ところが日本には鉄鋼のもととなる鉱石（鉄、銅、鉛等）が少量しかありません。開戦前、鉱石は輸入に頼っていました。戦争の長期化により武器の大量消費に対応することが難しくなりました。そこで、日本政府は全国から鉄鋼製品の鍋、釜、お寺の梵鐘、歴史人物の銅像まで集めて武器を作り戦争を続行しました。

2 船の数が不足

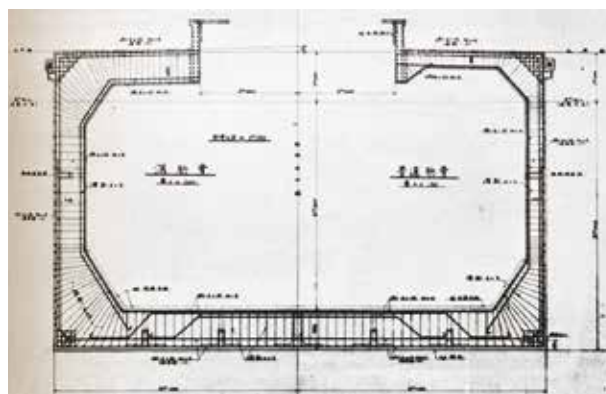
太平洋上での戦争で軍艦や輸送船が沈められ船の数が不足し、補充をしないとはいけません。しかし、鋼材がありません。そこで、コンクリート（セメント）で船を造ることになりました。

3 コンクリート船の研究、設計

昭和17年舞鶴海軍工廠（京都府）海軍技術中佐 林邦夫氏を中心とした研究班が発足し研究と設計に取りかかりました。



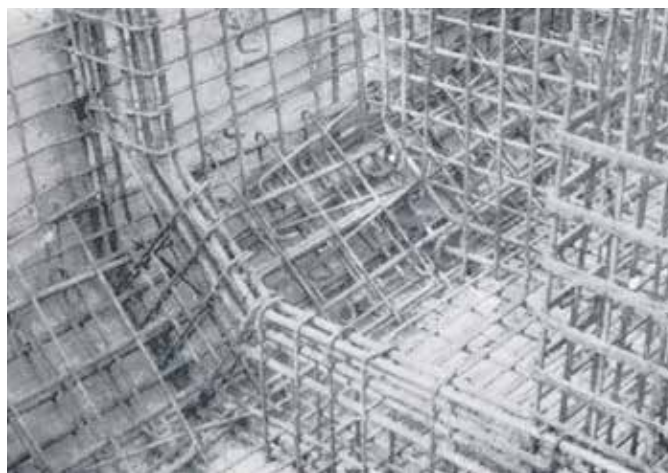
設計図



第一武智丸の横断面

4 コンクリート船を造った人

昭和19年、兵庫県高砂市曾根町の武智正次郎氏は曾根町の塩田跡に素掘りの造船ドックを作り、武智造船所（三井造船曾根工場）を建てました。当初4隻のコンクリート船を作り始め、造船所の名前にちなみ船名を「第一武智」～「第四武智」としました。



コンクリート船建造中の写真

5 完成就役

昭和20年までに3隻が就役し、瀬戸内海や南の島々に軍需物資（特に石炭）を運搬し活躍しました。
竣工：第1武智 昭和19年6月23日 第2武智 昭和19年日付不明
第3武智 昭和19年11月21日 第4武智 竣工前に終戦

6 船の大きさ

長さ：64.5m
幅：10m
重量：800ton（排水量：2200ton）
機関：ディーゼルエンジン・750馬力（Hp）
速力：9.5ノット（Kt）（時速17km/h）

7 コンクリート船武智の仕事

船種が鎮守府所管 軍需部配属 特務船（雑）となっており、軍需物資輸送に従事しておりました。
特に、北九州から大阪方面に石炭を輸送しました。



太平洋戦争終結まで活躍した特務船「武智」

8 終戦後のコンクリート船

第一武智：故障のため呉湾警固屋沖に係留（米軍航空写真あり）
第二武智：大阪商船所属、運用したが間もなく廃船、大阪湾に係留（米軍航空写真あり）
第三武智：昭和20年（1945）7月小豆島沖にて触雷沈没
第四武智：終戦時未完成、戦後就役、神戸沖にて台風のため座礁、廃船



呉湾警固屋沖武智丸航空写真



米軍が1948年12月30日に撮影。
日立造船・桜島に係留中の第二武智丸と思われる船影

安浦漁港の防波堤になった 「武智丸」を知ろう

1 枕崎台風

昭和20年(1945)8月15日に太平洋戦争(第2次世界大戦)は終わりました。日本は残念ながら敗戦、日本は連合国の攻撃で焦土となりました。

それから1ヶ月後の9月17日、昭和の三大台風に数えられる枕崎台風に襲われ、防波堤のない安浦漁港は甚大な被害を受けました。

2 安浦漁港の立地と海底の様子

安浦漁港に防波堤の設置を要請する気運が高まり、当時の漁業者と漁業組合長菅田国光氏は、県に防波堤の建設を申請しました。しかし、当時の土木建設技術では『地盤が軟弱で施工できない』と言うつれない回答でした。

安浦漁港は、暴れ川と言われた野呂川河口に位置し、土石の堆積した軟弱地であり、戦争直後の日本には建設機械はもとより土木施工技術ありませんでした。漁業者と漁業組合長菅田国光氏はどうしたものかと困りました。

3 朗報、コンクリート船「武智丸」

*昭和23年(1948) 5月

困っていた漁業者に思わぬ朗報が飛び込んできました。中国海運局から『防波堤になりそうなコンクリートで造った船がありますよ』と言う情報でした。漁業者と漁業組合長菅田国光氏は一気に元気を取り戻し動き始めました。

*昭和23年(1948) 7月

呉湾に係留中の「第一武智丸」大阪湾の「第二武智丸」2隻の払い下げと公共事業(防波堤工事)の請願書を国会に提出しました。

*昭和23年(1948) 8月

財務省国有財産局長から払い下げが認可され、機関、装備品等の撤去作業及び船体損傷等対策に要する作業を開始しました。

*昭和24年(1949) 3月

2隻の「武智丸」を防波堤とする事業が認められました。

*昭和24年(1949) 4月

本格的な実施測量が始まりました。

*昭和24年(1949) 6月

「第一武智丸」が曳航され安浦漁港沖に入港、仮係留しましたが、その後浸水搁座してしまい引き揚げ、排水、修理等大変な作業がありました。

*昭和24年(1949) 7月

「第二武智丸」曳航され漁港沖に入港、仮係留しましたが、こちらも浸水傾斜し大変でした。

*昭和24年(1949) 11月

防波堤設置起工式工事開始となりました。

*昭和25年(1950) 2月

待望の、防波堤設置完成。

コンクリート船「武智丸」『水の守り神』となりました。



4 防波堤 コンクリート船「武智丸」の危機

昭和48年（1973）法律の漁港整備計画により、コンクリート船「武智丸」を撤去し、新たに防波堤を作るという話がありましたが、船体が巨大で強固なため撤去を免れました。また、コンクリート船「武智丸」を置いたままコンクリートで固め普通の四角い防波堤とする計画も浮上しましたが漁業関係者や町民の反対で、コンクリート船「武智丸」は無くなることはありませんでした。



武智丸誘致に奔走した菅田国光氏（左）

水の守り神 みんなの宝物

海軍籍の雑種貨物船として建造、瀬戸内海や外洋を軍需物資輸送し、機雷や機銃掃射に耐え、戦後無用の長物で廃船解体を免れ、思いもかけない「防波堤」という新任務を与えられた数奇な運命のコンクリート船「武智丸」は今日も潮風に吹かれ、その雄姿を堂々と保っています。

「水の守り神」として港や船、人々を守り、訪れる観光客を楽しませてくれる安浦町の宝物です。



現在の船内



現在の甲板



水の守り神「武智丸」航空写真



干潮時の「武智丸」

○呉市が日本遺産（軍跡）になりました。「武智丸」も仲間に入れてもらいましょう。

安浦町まちづくり協議会

広島県安浦町中央 4-3-2

安浦市民センター内



安浦町へのアクセス



やすうらの情報が満載！
安浦町まちづくり協議会ホームページ

「やすうら夢工房」

アドレス <http://www.yasuura-yumekobo.com/>
または、「やすうら夢工房」で検索

2020年5月5日発行

発行 安浦町まちづくり協議会
連絡先 安浦町まちづくり協議会(安浦市民センター内)
☎(0823)84-2261

参考文献：安浦町史